

1. 発表の概要

発表者自身の学習塾講師としての経験や、地域での子育て支援活動を通して、高校生が抱える悩みや心の葛藤についてお話しされた。

特に、周囲からは明るく、勉強や部活動にも熱心に取り組んでいるように見える生徒が、ある日突然、学校に通えなくなる事例を紹介された。周囲には突然の変化に見えても、本人の中では悩みや不安が少しずつ蓄積している場合がある。大人が気づきにくい子どもの心の変化を理解し、支えていくことの重要性が示された。

2. 発表の主な内容

(1)高校生が抱える悩みと心の葛藤

高校生は、進路選択や卒業後の生活を具体的に考えなければならない時期にあり、周囲の期待や友人との比較などから、無理をして頑張り続けることがある。特に、努力家で周囲から頼られる生徒ほど、自分のつらさを表現できず、限界まで頑張ってしまう可能性がある。

(2)子どもの「声にならない声」を聴く

子どもは、自分の気持ちを必ずしも明確に理解し、言葉で表現できるわけではない。アンケートなどで意見を集めるだけでなく、表情や態度、何気ない会話などから気持ちを受け止める姿勢が大切である。

(3)PTA だからこそできる関わり

学園祭でのジュース販売やキッチンカーの誘致など、PTA 活動を通じて生徒と自然に交流できた事例が紹介された。PTA は、教員のように指導・評価する立場でも、自分の子どもに接する親の立場でもなく、生徒と気軽に関われる存在である。何気ない会話や交流が、生徒の安心感や気分転換につながる可能性がある。

(4)子どもの声を受け止め、次につなげる

子どもが意見を伝えても、「どうせ変わらない」と感じれば、次第に声を上げなくなる。すべての要望を実現できなくても、大人が真剣に受け止め、実現に向けて検討したり、難しい理由を説明したりすることが、子どもの主体性や信頼関係を育むうえで重要である。

3. PTA 活動への示唆

今回のレポート報告を通じて、PTA には、学校行事の支援だけでなく、生徒と地域の大人が自然に交流できる機会をつくる役割もあることを学んだ。

今後は、次の点を意識した活動が考えられる。

- ・ 生徒と保護者が気軽に言葉を交わせる機会をつくる。
- ・ 相談を目的とする場だけでなく、何気ない会話が生まれる場を大切にする。
- ・ 生徒の意見や要望を聴き、学校と連携して、その声を次の取り組みにつなげる。
- ・ 表面上の明るさや頑張りだけで判断せず、子ども一人ひとりの心の変化に目を向ける。

4. まとめ

子どもの人権を尊重するためには、意見を聴くだけでなく、言葉にならない思いにも目を向け、安心して自分を表現できる環境を整えることが大切。

PTA としても、子どもたちを温かく見守り、評価や指導とは異なる立場から関わることで、生徒が安心して過ごせる人間関係や居場所づくりに貢献していきたい。